

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	基礎演習	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)		医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、能動的な学習を促す学習技法を中心に授業を展開する。3年間の学校生活を送る上で必須の能力であることを意識して授業に臨んでほしい。常にクラスメイトとのコミュニケーションを意識しながら授業に臨んで欲しい。							
〔到達目標〕		学習の仕方、学校施設のの利用法、レポート作成等を習得する。							
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕 授業後は復習をし用語の意味を理解し学習について考えることが望ましい。					
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	学習の方法について(1)	年間のスケジュールを元に学習計画を理解する。							
2	学習の方法について(2)	評価の方法や自立学習のルールについて理解する。							
3	学習の方法について(3)	3つの習慣を通じて学習に必要な考え方を理解する。							
4	学習の方法について(4)	学習目標の立て方と修正の仕方について理解する。							
5	相互支援プログラム(1) グループワーク(自己紹介・他己紹介)	クラスメイトとの相互支援関係を構築する。							
6	相互支援プログラム(2) グループワーク 脱出ゲーム形式で学内ルールを	問題解決に向けて修正する方法を理解する。							
7	学習と習慣(1)	ネットを利用した学習方法について理解し利用できる。							
8	学習と習慣(2)	在校生の話を通じて学習方法や習慣方法について学ぶ。							
9	学びと環境(1)	海拔0メートル地帯における環境を学び防災知識を持てる。							
10	学びと環境(2)	防災を学び学校周辺の環境について理解する。							
11	自己表現(1)	表現の仕方を学びインターネットを使った自己アピール方法の仕方を学び作成する。							
12	自己表現(2)	作成した自己アピールの作品をクラスで発表する。							
13	学習習熟確認(1)	国家試験に準じた試験方法になれるために学習を深める。							
14	学習習熟確認(2)	国家試験に準じた試験方法になれるために学習を深める。							
15	学習習熟確認問題振り返り	問題の活用方法を知り国家試験に向けての意欲を高める。							
〔評価について〕 レポート課題の提出をもって評価を行う。				〔特記事項〕					

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者との信頼関係を築くために医療現場で必要とされるコミュニケーションの方法を知識技術として習得する授業を行う。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 コミュニケーションの基本的な考え方について理解し、鍼灸師として必要な対人スキルを習得する。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕 自分なりにコミュニケーションは何かを考えてくること。また、授業後は復習をし用語の意味やコミュニケーション術について反復し理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	コミュニケーションの取り方について				医療従事者として、コミュニケーション重要性を理解する。				
2	コミュニケーションの取り方について				医療従事者として、コミュニケーション重要性を理解する。				
3	コミュニケーション演習				多様化の時代に適したコミュニケーション方法を考えることが出来る				
4	コミュニケーション演習				多様化の時代に適したコミュニケーション方法を考えることが出来る				
5	コミュニケーション演習				コミュニケーションを通して大きな成果を得られることを体感する。				
6	コミュニケーション演習				コミュニケーションを通して大きな成果を得られることを体感する。				
7	コミュニケーション演習				自助・共助・公助を理解し、互いに助け合うことの重要性を学ぶ				
8	コミュニケーション演習				自助・共助・公助を理解し、互いに助け合うことの重要性を学ぶ				
9	デジタルコンテンツを利用した動画作成の作り方				IT機器を駆使し、自己開示を行う。				
10	コミュニケーション演習				チームで成果を上げることの重要性を理解する。				
11	コミュニケーション演習				チームで成果を上げることの重要性を理解する。				
12	コミュニケーション演習				チームで成果を上げることの重要性を理解する。				
13	コミュニケーション演習				チームで成果を上げることの重要性を理解する。				
14	コミュニケーション演習				チームで成果を上げることの重要性を理解する。				
15	コミュニケーション演習				チームで成果を上げることの重要性を理解する。				
〔評価について〕 評価は提出物とレポート確認テストで行う。					〔特記事項〕				

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
コミュニケーションスキルⅡ					専任教員			

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者との信頼関係を築くために医療現場で必要とされるコミュニケーションの方法を知識技術として習得する授業を行う。  
様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。

- 〔到達目標〕
- ①学習を通じてコミュニケーションの方法を学び相互支援関係を作ることができる。
  - ②自分なりのおもてなしを考え相互理解を高めおもてなしの心得を理解することができる。
  - ③キャリア教育を通じてビジネスマナーを学び実践することができる。

〔使用教材、参考文献等〕	〔準備学習・時間外学習〕 普段の生活でサービス・おもてなし体験をしてきてほしい。 また、おもてなしの型を理解し反復学習してほしい。
--------------	---

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	チームコミュニケーション①	クラスとの交流を深め3年間の生活がイメージできる
2	チームコミュニケーション②	クラスとの交流を深め4年間の生活がイメージできる
3	チームコミュニケーション③	クラスとの交流を深め5年間の生活がイメージできる
4	チームコミュニケーション④	クラス間の交流を深め、同じ目標を持つ仲間との情報交流ができる。
5	チームコミュニケーション⑤	クラス間の交流を深め、同じ目標を持つ仲間との情報交流ができる。
6	多様化する業界①	卒業生の話を聞き、学校生活のイメージができる。
7	多様化する業界②	卒業生の話を聞き、学校生活のイメージができる。
8	多様化する業界③	様々な分野で活躍するセラピストの話を聞き、将来像を明確にできる。
9	多様化する業界④	様々な分野で活躍するセラピストの話を聞き、将来像を明確にできる。
10	多様化する業界⑤	様々な分野で活躍するセラピストの話を聞き、将来像を明確にできる。
11	業界への理解と自身の未来①	これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。
12	業界への理解と自身の未来②	これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。
13	業界への理解と自身の未来③	これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。
14	業界への理解と自身の未来④	これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。
15	業界への理解と自身の未来⑤	これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。

〔評価について〕 評価は レポートで行う。 評価は学則規定に準ずる。	〔特記事項〕
--	--------

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		保健体育Ⅰ		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
スポーツ現場でトレーナーを経験している体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を変えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。											
〔到達目標〕											
中高生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
						初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。☑					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	講義の概要とトレーナーとして必要なことや不可欠な要素					トレーナーの必要性や重要性が理解できる。					
2	パートナーストレッチの必要性と方法					パートナーストレッチの必要性を理解するとともにパートナーストレッチが模倣・指導できる。					
3	パートナーストレッチの確認テスト					パートナーストレッチの確認テストを実施する。					
4	クーリングダウン及び静的ストレッチの必要性と方法					静的ストレッチの必要性を理解するとともに静的ストレッチが模倣・指導できる。					
5	静的ストレッチの確認テスト					静的ストレッチのテストを実施する。					
6	ウォーミングアップ及び動的ストレッチの必要性と方法					動的ストレッチの必要性を理解するとともに動的ストレッチが模倣・指導できる。					
7	動的ストレッチの確認テスト					動的ストレッチのテストを実施する。					
8	自重の筋トレ(スクワットやランジ、腕立て伏せ、アニマルフロー)の必要性と方法					自重の筋トレの必要性を理解するとともに自重の筋トレが模倣・指導できる。					
9	自重の筋トレ確認テスト					自重筋トレのテストを実施する。					
10	道具(バランスボール、ストレッチボール)を用いたトレーニングの必要性と方法					ストレッチボールの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。					
11	道具(セラバンドやゴムチューブ)を用いたトレーニングの必要性と方法					セラバンドやゴムチューブの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。					
12	スポーツにおける栄養・休養の必要性と方法					栄養・休養の必要性を理解するとともに食事・休養の必要性などを指導できる。					
13	トレーニング施設の管理・運営①(スポーツジム)					スポーツジム施設の安全及び環境の配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。					
14	トレーニング施設の管理・運営②(トレーナールーム)					トレーナールームの環境配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。					
15	中間テスト					筆記テスト					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		保健体育Ⅰ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
スポーツ現場でトレーナーを経験している体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。											
〔到達目標〕											
中高生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
						初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。☑					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	講義の概要とテーピングの概要					テーピングの基礎的な内容が理解できる					
17	足関節の触診の復習とテーピングの切り方					テーピングの切り方のコツをマスターできる					
18	アンダーラップの使い方と巻き方①					アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる					
19	アンダーラップの使い方と巻き方②					アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる					
20	アンダーラップテスト					アンダーラップの確認テストを実施する					
21	アンカーテープとステアアップ					ステアアップまでの巻き方のコツをマスターできる					
22	ホースシュー、ヒールロック、フィギュアエイト					フィギュアエイトまでの巻き方のコツをマスターできる					
23	足関節内反捻挫予防テスト					足関節内反捻挫予防テーピングテストを実施する					
24	足関節捻挫に対する応用テーピング①(サッカーテーピング)					足関節捻挫のテープ(応用①)を巻くことができる					
25	足関節捻挫に対する応用テーピング②(底背屈制限)					足関節捻挫のテープ(応用②)を巻くことができる					
26	足関節捻挫に対する応用テーピング③(その他)					足関節捻挫のテープ(応用③)を巻くことができる					
27	足関節捻挫に対する応急処置のやり方①					RICE処置の必要性を理解するとともに圧迫が模倣・指導できる					
28	足関節捻挫に対する応急処置のやり方②					RICE処置の必要性を理解するとともにアイシングが模倣・指導できる					
29	アイシングの確認テスト					アイシングのテストを実施する					
30	期末テスト					技術評価を行う機会とする					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場（鍼灸臨床現場）において開業し鍼灸を通じて地域の健康に貢献している鍼灸師が、医療の基礎となる解剖学のうち、人体構造の基礎、筋骨格系を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕									
医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。人体構造の基礎、筋骨格について説明できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
解剖学、解剖生理（医歯薬出版社）					医学用語が多く、文章を読み解くことが難しいため、予習を行う。知識定着のための復習を毎回行う。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	・オリエンテーション ・第1章；人体の構成 1. 細胞				人体の構成で最小単位である細胞を理解できる。				
2	・第1章；人体の構成 細胞分裂と遺伝子～上皮組織				上皮組織の違いが分かり、どこにどのような上皮組織があるか理解できる。				
3	・第1章；人体の構成 結合組織				結合組織にどのようなものがあるかが分かり、どこにどのような結合組織があるか理解できる。				
4	・第1章；人体の構成 筋組織～神経組織				筋組織、神経組織の構造が理解できる。				
5	・第1章；人体の構成 体表構造～人体の区分と方向				人体の区分と方向の用語が分かり運動方向の理解ができる。				
6	第10章；運動器系 骨格系～筋系				筋骨格の基礎が理解できる。				
7	第10章；運動器系 脊柱				脊柱の構造が理解できる。 頸椎・胸椎・腰椎の構造が理解できる。				
8	中間テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	第10章；運動器系 胸郭				胸郭の構造が理解できる。				
10	第10章；運動器系 上肢帯の骨格				上肢帯の構造が理解できる。				
11	第10章；運動器系 上肢の骨格				橈骨・尺骨・手の骨の構造が理解できる。				
12	第10章；運動器系 下肢帯の骨				下肢帯を構成する骨の構造が理解できる。				
13	第10章；運動器系 下肢の骨				脛骨・腓骨の構造が理解できる。				
14	第10章；運動器系 下肢の骨				足根骨・趾骨の構造が理解できる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間テスト（50点）と期末テスト（50点）の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において開業し鍼灸を通じて地域の健康に貢献している鍼灸師が、医療の基礎となる解剖学のうち、人体構造の基礎、筋骨格系を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕									
医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。人体構造の基礎、筋骨格について説明できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
解剖学、解剖生理(医歯薬出版社)					医学用語が多く、文章を読み解くことが難しいため、予習を行う。知識定着のための復習を毎回行う。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	第10章;運動器系 頭蓋骨				頭蓋骨を構成する骨を理解できる。				
17	第10章;運動器系 頭蓋骨				顔面頭蓋・脳頭蓋の構造を理解できる。				
18	第11章;運動器系 頭蓋骨				内頭蓋底・外頭蓋底の構造を理解する。				
19	第10章;運動器系 体幹の筋①				体幹前面(胸部・腹部)の筋の構造について理解できる。				
20	第10章;運動器系 体幹の筋②				体幹後面(背部・腰部)の筋の構造について理解できる。				
21	第10章;運動器系 上肢の筋①				肩甲骨に付着する筋の構造が理解できる。				
22	中間テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
23	第10章;運動器系 上肢の筋②				上腕部の筋(屈筋・伸筋)の構造が理解できる。				
24	第10章;運動器系 上肢の筋③				前腕の筋(屈筋・伸筋)・手の内在筋の構造が理解できる。				
25	第10章;運動器系 下肢の筋①				内腸骨筋と外腸骨筋の構造が理解できる。				
26	第10章;運動器系 下肢の筋②				大腿の筋(屈筋・伸筋)の構造が理解できる。				
27	第10章;運動器系 下肢の筋③				下腿の筋(前部・後部・外側部)の構造が理解できる。				
28	第10章;運動器系 頭頸部の筋				頸部の筋・表情筋の構造が理解できる。				
29	第10章;運動器系 体幹の局所解剖				体幹の支配神経脈管について理解できる。				
30	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅱ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
								櫻井 恵司	

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において開業し鍼灸を通じて地域貢献をしている鍼灸師が医療の基礎となる解剖学のうち、内臓系、循環器系、神経系を習得する授業を行なう。

医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。

座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。

呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、神経について説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・第3章 呼吸器 鼻腔 咽頭	鼻腔、咽頭の構造について理解できる。
2	第3章 呼吸器 咽頭、喉頭、気管、気管支	喉頭、気管、気管支の構造について理解できる。
3	第3章 呼吸器 肺	肺の構造について理解できる。
4	第2章 循環器 血管総論、心臓	血管の構造、心臓の外景、体循環、肺循環について理解できる。
5	第2章 循環器 心臓	心臓の内景、冠状動脈について理解できる。
6	第2章 循環器 心臓	刺激伝導系について理解できる。
7	第2章 循環器 動脈 試験（呼吸器系、血管総論、心臓）	大動脈弓から分枝する動脈について理解できる。 試験により効果測定を行い、習熟度を理解する。
8	第2章 循環器 動脈	大動脈弓、胸大動脈から分枝する動脈について理解できる。
9	第2章 循環器 動脈	腹大動脈から分枝する動脈について理解できる。
10	第2章 循環器 動脈、静脈	深静脈と皮静脈の構造について理解できる。
11	第2章 循環器 静脈	動脈の走行と、静脈の走行の相違を理解できる。
12	第2章 循環器 静脈、胎児循環	胎児循環について理解できる。
13	第2章 循環器 リンパ	2大リンパ本幹の走行、リンパ器官の構造について理解できる。
14	試験（動脈、静脈、胎児循環、リンパ） 第4章 消化器系 総論	消化器系の器官について理解できる。 試験により効果測定を行い、習熟度を理解する。
15	第4章 消化器系 口腔	口腔の構造について理解できる。

〔評価について〕

評価は試験で行う。

試験4回の合計200点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項に下線を引き、またメモをとること。主にデータ（または配布プリント）による授業を行なう。

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			櫻井 恵司		
授業科目名		解剖学Ⅱ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30		
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)												
医療現場（鍼灸臨床現場）において開業し鍼灸を通じて地域貢献をしている鍼灸師が医療の基礎となる解剖学のうち、内臓系、循環器系、神経系を習得する授業を行なう。 医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。												
〔到達目標〕 医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。 呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、神経について説明できるようになる。												
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
16	第4章 消化器系 口腔、咽頭、食道					咽頭、食道の構造について理解できる。						
17	第4章 消化器系 胃、小腸、大腸					胃、小腸、大腸の構造について理解できる。						
18	第4章 消化器系 肝臓					肝臓の構造について理解できる。						
19	第4章 消化器系 胆嚢、膵臓、腹膜					胆嚢、膵臓の構造、腹膜後器官について理解できる。						
20	第5章 泌尿器系 腎臓					腎臓の構造について理解できる。						
21	第5章 泌尿器系 腎臓、尿管、膀胱、尿道					腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造について理解できる。						
22	試験（消化器系、泌尿器系） 第7章 内分泌器 視床下部、下垂体					試験により効果測定を行い、授業内容の習得度を理解する。下垂体の構造を理解できる。						
23	第7章 内分泌器 甲状腺、副腎、性腺					内分泌器の構造について理解できる。						
24	第8章 神経系 総論、脊髄					神経の概要を理解できる。脊髄の構造を理解できる。						
25	第8章 神経系 脊髄、脳幹					脳幹の構造について理解できる。						
26	第8章 神経系 脳幹、間脳、小脳					脳幹、間脳、小脳の構造について理解できる。						
27	第8章 神経系 大脳					大脳皮質の構造について理解できる。						
28	第8章 神経系 大脳					大脳髄質の構造について理解できる。						
29	試験（内分泌器系、神経系）					試験により効果測定を行い、授業内容の習得度を理解する。						
30	第8章 神経系 大脳、伝導路					脳脊髄膜、脳室系について理解できる。伝導路について理解できる。						
〔評価について〕 評価は試験で行う。 試験4回の合計200点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項に下線を引き、またメモをとること。主にデータ（または配布プリント）による授業を行なう。						

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員		
授業科目名		生理学Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション				科目概要および生理学を学ぶ意義を理解する。				
	第1章 生理学の基礎 A、生理機能の特徴～				細胞内小器官の役割を理解する。				
2	第1章 DNA～E、物質移動				体液の組成と、出納バランスをおおまかに捉える。 物質移動の種類と法則を理解する。				
3	第4章 消化と吸収 A、消化と吸収 ～(2)小腸の運動				消化吸収の過程について大枠を理解する。				
4	第4章 (3)大腸の運動～C、消化液 [1]唾液				消化管運動と調節機構について理解する。				
5	第4章 機会的消化復習 [2]胃液～[4]胆汁				消化液の作用について酵素を中心に理解する。				
6	第4章 [5]腸液～D、吸収 a.小腸吸収の機序				消化液の作用について酵素を中心に理解する。				
7	第4章 b.各種栄養素の吸収～F、摂食の調節 化学的消化復習				肝臓の働きを理解する。				
8	確認テスト①(前半 中間)				第1章・第4章についての習熟度をみる試験を行う。				
9	テスト解説 第5章 代謝 A.食品と栄養素～				テストを返却し、解説する。 吸収された栄養素の代謝経路について理解する。				
10	第5章 C、各栄養素の働きと代謝 ～b.脂質				吸収された栄養素の代謝経路について理解する。				
11	第5章 c.蛋白質～g.代謝の調節				吸収された栄養素の代謝経路について理解する。				
12	第7章 排泄 A腎臓の働き～d.尿細管の分泌				腎臓の働きを理解する。				
13	第7章 e.腎機能の測定～D.腎臓と体液の調節				腎臓による体液の調節機構を理解する。				
14	第7章 b.体液の浸透圧の調節～排尿障害				排尿のしくみを理解する。				
15	確認テスト②(前半 期末)				第5章・第7章についての習熟度をみる試験を行う。				
〔評価について〕 評価は基本、筆記試験で行う。筆記試験は各確認テストごとに50点満点、合計200点で評価する。小テストを実施し、その点数を確認テストに加算する場合がある。評価は学則規定に準ずる。確認テスト①と②(=前半)[或いは確認テスト③と④(=後半)]を合計し、100点満点中で60点未満の者は再試験を実施する。(再試験は前半・後半でそれぞれ1回ずつ実施。再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点とする)					〔特記事項〕 プリント(データ)を配布し授業を行う。また、メモを取るような習慣をつけ、まとめ学習に活かすこと。				

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員		
授業科目名	生理学Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	テスト解説 第10章 神経 A、ニューロンの構造と働き～d.変性	神経の分類、一般、ニューロン
17	第10章 B、神経線維の興奮伝導～神経線維の分類	神経線維の種類について理解する。
18	第10章 C、シナプス伝達～神経伝達物質、受容体	伝導・伝達について理解する。
19	第10章 D、中枢神経系の分類と機能～F、脊髄	中枢神経系の分類と機能を理解する。
20	第10章 脊髄、伝道路(上行路)	伝導路について上行性を理解する。
21	第10章 脊髄下行路 プラウン・セカール症候群	伝導路について下行性を理解する。
22	確認テスト③(後半 中間)	第10章(前半)についての習熟度をみる試験を行う。
23	テスト解説 第10章 G、脳幹～視床下部	中枢神経系の分類と機能を理解する。
24	第10章 大脳～脳脊髄液	中枢神経系の分類と機能を理解する。
25	10章 中枢神経系の復習	中枢神経系の復習
26	第10章 末梢神経系の機能	末梢神経系について理解する。
27	第10章 N、自律神経系 a.自律神経系の概要～	自律神経系の機能と支配領域を理解する。
28	第10章 h.自律神経系の神経伝達物質と受容体	自律神経系の機能と支配領域を理解する。
29	確認テスト④(後半 期末)	第10章 中枢神経系および自律神経の習熟度をみる試験を行う。
30	テスト返却・解説 総まとめ	見直しをすることで長期記憶に移行させる

〔評価について〕

評価は基本、筆記試験で行う。筆記試験は各確認テストごとに50点満点、合計200点で評価する。小テストを実施し、その点数を確認テストに加算する場合がある。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

プリント(データ)を配布し授業を行う。また、メモを取るように習慣をつけ、まとめ学習に活かすこと。

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース		学年	1	開講区分	通年	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数
生理学Ⅰ								今井 紀代子/石野 竜平
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。								
〔到達目標〕								
医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。								
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	体液の生理			アシドーシス、アルカローシスを理解				
2	血液の組成と働き			血液の細胞成分と血漿成分を知る				
3	赤血球の働き			赤血球の働きを知る				
4	止血の機序			血液凝固を理解				
5	免疫システム			免疫システムを理解				
6	血液型			ABO式 Rh式を理解				
7	ビタミン欠乏			ビタミン欠乏症をしる				
8	中間試験							
9	循環の生理			循環の基礎を知る				
10	刺激伝導系			刺激伝導系を理解				
11	心電図			心電図を理解				
12	心筋梗塞、狭心症			心筋梗塞、狭心症を知る				
13	血管の構造と働き			動脈静脈毛細血管を理解				
14	血圧調節機序			神経とホルモンによる血圧調節機序を理解				
15	期末試験			習熟度の確認				
〔評価について〕				〔特記事項〕				
評価は基本、筆記試験で行う。筆記試験は各確認テストごとに50点満点、合計200点で評価する。小テストを実施し、その点数を確認テストに加算する場合がある。評価は学則規定に準ずる。確認テスト①と②(=前半)[或いは確認テスト③と④(=後半)]を合計し、100点満点中で60点未満の者は再試験を実施する。(再試験は前半・後半でそれぞれ1回ずつ実施。再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点とする)				プリント（データ）を配布し授業を行う。また、メモを取るような習慣をつけ、まとめ学習に活かすこと。				

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						深山 俊			
衛生学・公衆衛生学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕									
国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 衛生学・公衆衛生学[医歯薬出版]					〔準備学習・時間外学習〕 聞きなれない言葉も多いので、予め教科書を読み予習してくること。また授業後は復習をし、仕組みや用語を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第1章 衛生学・公衆衛生学の意義				衛生学・公衆衛生学の成立、源流や歴史を理解できる。				
2	<第1章 確認テスト> 第10章1、消毒法一般 2、消毒の種類 1)物理的方法				消毒の定義、種類を理解する。 物理的消毒方法を理解する。 <確認テスト>				
3	第10章 2、消毒の種類 2)化学的方法				化学的消毒方法を理解する。				
4	第10章 3、消毒の実際				医療における消毒の意義、対象と方法を理解する。				
5	<第10章 確認テスト>第9章 感染症とその対策 1、感染症の意義と種類				感染症の意義と種類を理解する。 <確認テスト>				
6	第9章 2、発生要因				感染症の発生要因を理解する。				
7	第9章 3、感染症予防の原則				感染症の予防の原則を理解する。				
8	第9章 4、免疫 <第9章 確認テスト>				免疫とその種類を理解する。 <確認テスト>				
9	第2章 健康 1、健康の概念				健康の概要を理解する。				
10	第2章 2、健康管理				健康管理の構成や健康増進を理解する。				
11	第2章 3、衛生行政				健康に関する保健所や市町村の役割を理解する。				
12	<第2章 確認テスト>第3章 ライフスタイルと健康				食品の意義や食品と疾患の関係性を理解する。 <確認テスト>				
13	第3章 1)~5)食中毒				食中毒について理解する。				
14	第3章 6)BSE 2、運動と健康 <第3章確認テスト>				運動と健康の保持・増進を理解する。 <確認テスト>				
15	期末テスト 解答・解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は各章ごとの確認試験と期末試験を筆記試験で行う。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
衛生学・公衆衛生学									
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕									
国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 衛生学・公衆衛生学[医歯薬出版]					〔準備学習・時間外学習〕 聞きなれない言葉も多いので、予め教科書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、仕組みや用語を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
16	第4章 環境と健康 1、環境とは 2、日常生活環境 1)物理学的環境			環境のとらえ方を学び、物理的環境要因を理解する。					
17	第4章 2)化学的環境要因			化学的環境要因を理解する。					
18	第4章 3)生物学的環境要因			生物学的環境要因を理解する。					
19	第4章 3、環境問題			公害をはじめ、様々な環境問題を理解する。					
20	第4章 2)地球規模の環境問題			地球規模の環境問題を理解する。					
21	<第4章 確認テスト>第5章 産業保健			産業保健の意義や労働環境と健康を理解する。<確認テスト>					
22	<第5章 確認テスト>第6章 精神保健			精神保健の意義や精神の健康を理解する。<確認テスト>					
23	<第6章 確認テスト>第7章 母子保健			母子保健の意義や母体・乳幼児の健康を理解する。<確認テスト>					
24	<第7章 確認テスト>第8章 成人・高齢者保健 1、2、3、3)高血圧			成人・高齢者保健の意義や加齢と老化、生活習慣病の特徴と対策を理解する。<確認テスト>					
25	第8章 4)そのほかの生活習慣病～			高齢者の保健福祉対策や介護保険を理解する。					
26	<第8章 確認テスト>第11章 疫学			疫学概念と意義を理解する。<確認テスト>					
27	<第11章 確認テスト>第12章 保健統計			保健統計の意義、保健統計指標を理解する。<確認テスト>					
28	第12章 5)死因別死亡率～			主要な保健統計指標を理解する。					
29	<第12章 確認テスト> これまでのまとめ			1年間やってきたことを振り返り、確認する。<確認テスト>					
30	期末テスト 解答・解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は各章ごとの確認試験と期末試験を筆記試験で行う。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員 高濱 晴美/大石 知絵子			
授業科目名	医療概論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、医療従事者としての責任や医療倫理感を持った教員が、西洋、中国、日本の医学のはじまりから現代医学に至るまでを講義する。医療人としてどう現場に立つかを考えながら受講して欲しい。									
〔到達目標〕 どのようにして人類は体や病と向き合ってきたのかを理解し、医療人として患者さんにどう対応していくかを具体的に持つことが出来るようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 医療概論（医歯薬出版）					〔準備学習・時間外学習〕 医学史ではカタカナ・漢字での人物名が多く出るので復習をすること。後半の医療制度や倫理は自分の考えなども踏まえて覚えていくようにしましょう。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	医学史（西洋/古代・中世・ルネサンス）			西洋の医学の始まりや流れを学び理解する。					
2	医学史（西洋/ルネサンス以降）			西洋の医学を学び理解する。					
3	医学史（中国）①			中国の医学の始まりや流れを学び理解する。					
4	医学史（中国）②			中国の医学を学び理解する。					
5	医学史（日本/古代～中世）			日本の医学の始まりや流れを学び理解する。					
6	医学史（日本/中世～近代）			日本の医学を学び理解する。					
7	現代医学について			現代の医学について学び理解することが出来る。					
8	確認テスト			確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	振り返り、復習			テスト結果を振り返り、再確認をする。					
10	現代医療の課題			現代医療の課題を明確にし、課題に対しての自分の意見や考えが持てるようになる。					
11	現代の医療制度①			日本の医療制度を学び理解する。					
12	現代の医療制度②			日本の医療制度を学び理解する。					
13	医療従事者の倫理①			医療従事者とは何かを理解し、医療従事者としてあるべき姿を理解し理解度を高める。					
14	医療従事者の倫理②			医療従事者とは何かを理解し、医療従事者としてあるべき姿を理解し理解度を高める。					
15	確認テスト			確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は2回の確認テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	経絡経穴概論Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
						笠井 友和			

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。  
解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。  
経絡経穴の特性を理解し説明できる。  
解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論（医道の日本社）

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡・経穴の基礎 経絡・経穴の誕生～経絡の概要、要穴	正経十二経、奇経八脈について理解できる。
2	経絡・経穴の基礎 経穴の取り方に必要な用語、骨度法、同身寸法	経穴の取穴に必要な寸度の決定方法や用語を理解する。
3	経脈・経穴：手の太陰肺経①	手の太陰肺経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。
4	経脈・経穴：手の太陰肺経② 手の陽明大腸経①	経穴の取穴場所を理解できる。 手の陽明大腸経の流注と 経穴名の順番を理解し書くことができる。
5	経脈・経穴：手の陽明大腸経②	手の陽明大腸経の経穴の取穴場所を理解できる。
6	経脈・経穴：足の陽明胃経①	足の陽明大腸経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。
7	経脈・経穴：足の陽明胃経②	経穴の取穴場所を理解できる。
8	確認テスト 前半の復習	各経脈の流注と経穴名・取穴場所を理解できる。
9	確認テストの解答解説、 国家試験問題の紹介と経穴の覚え方アドバイス	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを 把握し、理解度を深める
10	経脈・経穴：足の陽明胃経③	経穴の取穴場所を理解できる。
11	経脈・経穴：足太陰脾経①	足太陰脾経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。
12	経脈・経穴：足太陰脾経②	経穴の取穴場所を理解できる。
13	経脈・経穴：手少陰心経	手少陰心経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。経穴の取穴場所を理解
14	肺経・大腸経・胃経・脾経・心経の取穴確認実技	人体上の取穴場所を理解し、実践することができる。
15	期末テスト 前期全体の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを 把握し、理解度を深める

〔評価について〕

① 1～15回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋  
第2回テスト60点＝100点とし、その二分の一の50点満点／  
② 16～30回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋  
第2回テスト60点＝100点とし、その二分の一の50点満点／  
①50点満点＋②50点満点＝100点満点で年間成績評価

〔特記事項〕

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース	学年 1	開講区分 通年	担当教員 笠井 友和			
授業科目名  経絡経穴概論Ⅰ	必修/ 選択  必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数  30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。

解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。

経絡経穴の特性を理解し説明できる。

解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論（医道の日本社）

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	前期期末試験解答解説、難経六十九難について	難経六十九難を使った経穴の選別方法を学び、理解できる。
2	経脈・経穴：督脈	督脈の流注と経穴名、取穴方法を学び理解できる。
3	経脈・経穴：手太陽小腸経①	手太陽小腸経の流注と経穴名を理解できる。
4	経脈・経穴：手太陽小腸経②	手太陽小腸経の取穴法を理解できる。
5	経脈・経穴：足太陽膀胱経①	足太陽膀胱経の流注と経穴名を理解できる。
6	経脈・経穴：足太陽膀胱経②背部の横並び	足太陽膀胱経の経穴名と背部の取穴を理解できる。
7	確認テスト 前半の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
8	確認テスト返却 解答・解説 背部穴の問題演習	国家試験問題を解き経絡経穴概論の出題傾向を理解できる。
9	経脈・経穴：足太陽膀胱経③	足太陽膀胱経の取穴を理解できる。
10	経脈・経穴：背部の奇穴 背部の実際 取穴実技	触診をしながら人体上に取穴することができる。奇穴の性質と取穴を理解できる。
11	正経十二経流注循環 脾経・心経・小腸経・膀胱系 取穴確認実技	流注を理解することができる。各経絡の取穴を人体上にすることができる。
12	経脈・経穴：足少陰腎経①	足少陰腎経の流注と経穴名を理解できる。
13	経脈・経穴：足少陰腎経②	足少陰腎経の取穴を理解できる。
14	経脈・経穴：任脈	任脈の流注、経穴名、取穴法を理解できる。
15	期末テスト 復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

- ① 1～15回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点とし、その二分の一の50点満点／
- ② 16～30回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点とし、その二分の一の50点満点／
- ①50点満点＋②50点満点＝100点満点で年間成績評価

〔特記事項〕

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						藤原 真由美			
東洋医学概論Ⅰ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。									
〔到達目標〕									
鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
新板 東洋医学概論（医道の日本）									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第1章 東洋医学の特徴				鍼灸の基礎となる東洋医学の哲学的な思想がイメージできるようになる。				
2	第3章 東洋医学の思想 陰陽学説				陰陽とは何か、陰と陽の関係性について理解できる				
3	第3章 東洋医学の思想 人体における陰陽①				陰陽学説を人体に応用して理解ができる				
4	第3章 東洋医学の思想 人体における陰陽②				陰陽学説を人体に応用して理解ができる				
5	第3章 東洋医学の思想 五行学説				五行とは何か、五行の関係性について理解できる				
6	第3章 東洋医学の思想 五行学説				五行色体表の意味を理解し難しい漢字が書けるようになる				
7	陰陽学説、五行学説についての復習				五行色体表を完璧にできるようにする				
8	確認試験（第1回）・解説				東洋医学の基本的な考え方の理解を深める				
9	第2章 生理と病理 生理物質と神(精)				東洋医学的な人体の仕組みを理解する 神と精とは何か具体的に説明できる				
10	第2章 生理と病理 生理物質と神(気)				気とは何か、その種類と働きについて理解する				
11	第2章 生理と病理 生理物質と神(血)				気の病理について理解できる 東洋医学的な症状の名称を覚える				
12	第2章 生理と病理 生理物質と神(血)				血とは何か、その働きと病理について理解できる				
13	第2章 生理と病理 生理物質と神(津液)				津液とは何か、その働きと病理について理解できる				
14	第2章 生理と病理 生理物質の相互関係				生理物質がどのひょうな関係性にあるのか説明できる				
15	確認試験（第2回）・解説				効果測定を行い習得できていないところを把握し理解度を深める				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。試験は通年で6回実施、合計300点で評価する。第1～3回試験（各30点）第4～6回試験（各70点）評価は学則規定に準ずる					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。授業資料はファイリングしておくこと。				

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	東洋医学概論Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

新板 東洋医学概論（医道の日本）

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	第5章 弁証論治（八綱弁証） 第2章 生理と病理 病院病機（外観病因）①	人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解ができる。
17	第2章 生理と病理 病院病機（外観病因）②	人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解できる
18	第2章 生理と病理 病院病機（内傷病因とその他の病因）①	人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解できる
19	第2章 生理と病理 病院病機（内傷病因とその他の病因）②	五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる
20	第2章 生理と病理 蔵象学説①	五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる
21	第2章 生理と病理 蔵象学説②	五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる
22	確認テスト（第3回）	効果測定を行い理解度を深める
23	第2章 生理と病理 肝系統①	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
24	第2章 生理と病理 肝系統②	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
25	第2章 生理と病理 肝系統③	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
26	第2章 生理と病理 心系統①	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
27	第2章 生理と病理 心系統②	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
28	第2章 生理と病理 心系統③	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
29	これまでの復習・問題演習	問題演習を通じて理解不足の部分各自把握し知識の習得を行う
30	確認テスト（第4回）	効果測定を行い理解度を深める

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。試験は通年で6回実施、合計300点で評価する。第1～3回試験（各30点）第4～6回試験（各70点）評価は学則規定に準ずる

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。授業資料はファイリングしておくこと。

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名						藤原 真由美			
東洋医学概論Ⅰ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。									
〔到達目標〕									
鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
新板 東洋医学概論（医道の日本）									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
31	第2章 生理と病理 脾系統①			脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
32	第2章 生理と病理 脾系統②			脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
33	第2章 生理と病理 脾系統③			脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
34	第2章 生理と病理 肺系統①			肺とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
35	第2章 生理と病理 肺系統②			肺とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
36	第2章 生理と病理 肺系統③			肺とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
37	第2章 生理と病理 腎系統①			腎とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
38	確認テスト（第5回）			効果測定を行い理解を深める					
39	第2章 生理と病理 腎系統②			腎とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
40	第2章 生理と病理 腎系統③			腎とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
41	第2章 生理と病理 経絡			経絡の概念と構造について理解度を確認し各経絡に出現する病の違いを理解することができる					
42	蔵象まとめ・経絡病証まとめ			蔵象学説・経絡病証を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める					
43	第2章 生理と病理 伝変と波及			蔵象学説を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める					
44	期末試験			効果測定を行い理解を深める					
45	解説・五臓の相互関係			1年を通しての内容を振り返り習得できていないところを把握し理解度を深める					
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。試験は通年で6回実施、合計300点で評価する。第1～3回試験（各30点）第4～6回試験（各70点）評価は学則規定に準ずる					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。授業資料はファイリングしておくこと。				

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸の歴史をはじめ、基礎となる用具の種類・使用方法・消毒法などを習得する授業を行う。 臨床で使用する道具の名称や使用方法を実際に見たり触ったりして覚えるよう努めてほしい。									
〔到達目標〕									
鍼灸治療を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。鍼および灸の歴史・種類・方法などを説明できるようになる。実技授業に向けて、感染予防(衛生管理)を学び、活かす。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
はりきゅう理論(医道の日本)									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第1章 概論				この科目に関する勉強方法を理解し、実技授業(臨床現場)で使用する道具の名称を覚える。				
2	第2章 鍼の基礎知識 1、用具 毫鍼の各部の名称				鍼の長さ・太さの名称、鍼尖の形状・鍼の材質等の特徴を理解する。				
3	第2章 2)鍼の長さ・太さ～								
4	第3章 刺鍼の方式と術式				刺鍼の方式・術式を理解する。				
5	1、刺鍼の方式～2、刺鍼の術式 5)刺鍼の角度								
6	第5章 灸の基礎知識				灸施術で使用する道具について理解する。				
7	第6章 灸術の種類				灸施術について理解する。				
8	第3章 刺鍼の方式と術式				17手技の方法を理解する。				
9	6)刺鍼中の手技①								
10	6)刺鍼中の手技②				17手技の方法を理解する。				
11	確認テスト				確認テストでこれまでの習熟度を確認する。				
12	第4章 特殊鍼法 1、小児鍼				特殊な施術道具や方法を理解する。				
13	テスト返却・解説				特殊な施術道具や方法を理解する。				
14	第4章 2、灸頭鍼～4、低周波鍼通電療法				鍼灸施術におけるリスクマネジメントを学ぶ。				
15	第4章 5、その他				鍼灸施術の禁忌を理解する。				
16	第7章 リスク管理 1、安全対策の基本～				鍼灸施術における感染症対策を学ぶ。				
17	第7章 2、感染対策～				鍼灸施術において考慮すべきリスクや副作用、それらが起きた場合の処置を理解する。				
18	第7章 3、有害事象の種類と対処法				灸施術において考慮すべきリスクや副作用、それらが起きた場合の処置を理解する。				
19	1) 鍼施術の有害事象								
20	2) 灸施術の有害事象								
21	期末テスト				今までの授業における知識の習熟度を確認する。				
22	期末テストの返却・解説				試験に対する勉強量や方法が適正であったか自己評価を行い、振り返りを行う。				
23	総復習								
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。小テストを実施し、その点数を確認・期末テストに加算する場合もある。確認テストと期末テストの合計点が60点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。					各分野ごとにプリントを配布し、授業を行う。重要項目には下線を引いたりメモをとること。				

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	触察解剖Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。触診とは自分の手の感覚で、人体構造の位置を特定すること、そして目的部位の評価をすることである。体表から触れることで構造の特徴を理解し、対人施術に応用できることを目指す。

〔到達目標〕

解剖学の復習と、体表触診をすることで人体構造の位置を把握することができる。

性別、年齢などの個体差を感じ取ることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学（医歯薬出版）

〔準備学習・時間外学習〕

授業内容の修得をするための練習を行うことが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	手の育て方	身体に触れる際の手の当て方が理解出来る。
2	触診の基礎、棘突起の触擦	触診の基礎を理解する。 第7頸椎棘突起～第5腰椎棘突起までの触診ができる。
3	触診の基礎、棘突起の触擦	触診の基礎を理解する。 第7頸椎棘突起～第5腰椎棘突起までの触診ができる。
4	棘突起・腰部の骨触擦	第7頸椎棘突起～第5腰椎棘突起までの触診ができる。12肋骨・腸骨稜が確認できる。
5	上肢帯・上肢の骨触擦	肩甲骨・上腕骨のランドマークが確認できる。
6	骨触診の復習	背部の骨触診を実施できる
7	確認試験	棘突起・肩甲骨・腸骨稜・12肋骨が確認できる。
8	下肢の骨触擦	テーピングに必要な足部のランドマークが確認できる
9	下肢・足部の骨触擦	テーピングに必要な足部のランドマークが確認できる必要な膝のランドマークを確認できる
10	下腿の筋触擦	下腿を走行する筋を確認できる
11	下腿の筋触擦	下腿を走行する筋を確認できる
12	上肢帯・上肢の骨触擦	肩甲骨・上腕骨のランドマークが確認できる。
13	上肢帯の筋触擦	表層の筋を確認できる。
14	上肢帯の筋触擦	表層の筋を確認できる。
15	期末試験	棘突起・肩甲骨・腸骨稜・12肋骨が確認できる。

〔評価について〕

評価は 実技試験で行う。

試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。

評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	社会あはき学Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、現代社会における問題とそれに対するあはき師の役割を講義形式で行う。さらにワーク形式で各々の意見を出し、具体的な問題点の抽出や解決策などを考える。

〔到達目標〕

我が国における問題点とあはき師の役割を理解できる。

将来の鍼灸師像を明確に出来る。

〔使用教材、参考文献等〕

社会あはき学

〔準備学習・時間外学習〕

講義で行った内容を復習し、自分自身の考えを振り返る。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	総論：日本のあはき師の推移と世界のあはき師の実際	日本と世界の資格要件の違いを理解できる。 日本が抱える問題点を理解できる。
2	各論：産業領域とあはき師 ワーク⑦	就労者における問題点とあはき師の役割について理解できる。
3	各論：メンタルヘルスとあはき師 ワーク⑧	我が国におけるメンタルヘルスの問題点とあはき師の役割について理解できる。
4	各論：高齢社会とあはき師① ワーク①	高齢社会における問題点とあはき師の役割について理解できる。
5	各論：高齢社会とあはき師② ワーク②	高齢社会における問題点とあはき師の役割について理解できる。
6	各論：少子化社会とあはき師 ワーク③	少子化社会における問題点とあはき師の役割について理解できる。
7	各論：子育て問題とあはき師 ワーク④	子育てにおける問題点とあはき師の役割について理解できる。
8	各論：女性の社会進出とあはき師 ワーク⑤	女性の社会進出に伴う問題点とあはき師の役割について理解できる。
9	各論：不妊症とあはき師 ワーク⑥	不妊に伴う問題点とあはき師の役割について理解できる。
10	各論：病院内で活動するあはき師 ワーク⑨	病院内で活動するための問題点や意義について理解できる。
11	各論：在宅治療を行うあはき師 ワーク⑩	在宅治療をする意義や注意点・問題点について理解できる。
12	各論：福祉施設で活動するあはき師 ワーク⑪	福祉施設で活動するための問題点や意義・役割について理解できる。
13	緩和ケアとあはき師/医療観光とあはき師 期末テスト	緩和ケアでのあはき師の役割を理解できる。医療観光分野でのあはき師の役割を理解できる。
14	各論：スポーツ分野でのあはき師	スポーツ分野で活動するあはき師の仕事や役割を理解できる。
15	各論：スポーツ分野でのあはき師	スポーツ分野で活動するあはき師の仕事や役割を理解できる。

〔評価について〕

評価は、授業内ワークでの成果物と記述形式の期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員 高濱 晴美			
授業科目名  基礎はり実技	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声かけなども実践する。

〔到達目標〕

正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。  
片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。  
正しい刺鍼操作を身につけ、正しい動作で鍼を枕に刺鍼できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技（医道の日本）

〔準備学習・時間外学習〕

初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。☑

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション 鍼の名称及び使用器具の説明、手洗い、消毒の説明	正しい手洗い、消毒ができる。
2	片手挿管法の練習 ワゴンの消毒	正しい片手挿管のやり方が理解できる。 ワゴン消毒のやり方が理解できる。
3	片手挿管法の練習 ワゴンの消毒	片手挿管が前回より素早くできるようになる。 ワゴン消毒が説明を見ながら正しくできる。
4	片手挿管法の練習 ワゴンの消毒	片手挿管が前回より素早くできるようになる。 ワゴン消毒が説明を見ずに正しくできる。
5	片手挿管法の練習 刺鍼練習器への刺鍼（レベルA）・・・送り込み法	片手挿管が前回より素早くできるようになる。 正しい刺鍼操作が理解できる。
6	片手挿管法の練習 刺鍼練習器への刺鍼（レベルA）・・・送り込み法	片手挿管が10回/分以上できる。 正しく刺鍼練習器(レベルA)に刺入できる。
7	片手挿管法の練習 刺鍼練習器への刺鍼（レベルB）・・・送り込み法	片手挿管が10回/分以上できる。 正しく刺鍼練習器(レベルB)に刺入できる。
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
9	片手挿管法の練習 刺鍼練習器への刺鍼（レベルB）・・・送り込み法	片手挿管が12回/分以上できる。 正しく早く刺鍼練習器(レベルB)に刺入できる。
10	片手挿管法の練習 刺鍼練習器への刺鍼（レベルA）・・・旋撚刺法	片手挿管が12回/分以上できる。 正しい旋撚刺法が理解できる。
11	片手挿管法の練習 刺鍼練習器への刺鍼（レベルA）・・・旋撚刺法	片手挿管が15回/分以上できる。 旋撚刺法で刺鍼練習器(レベルA)に刺入できる。
12	片手挿管法の練習 刺鍼練習器への刺鍼（レベルB）・・・旋撚刺法	片手挿管が15回/分以上できる。 旋撚刺法で刺鍼練習器(レベルB)に刺入できる。
13	片手挿管法の練習 自分自身への刺鍼	人体における押手の置き方、刺手の作り方が理解できる。
14	片手挿管法の練習 自分自身への刺鍼	人体への刺鍼の方法を理解し実行できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。

〔評価について〕

評価は実技試験で行う。  
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。  
難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース	学年 1	開講区分 通年	担当教員 高濱 晴美			
授業科目名  基礎はり実技	必修/選択 必修	授業形態 実技	時間数(単位) 60(2)	授業回数 30		

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声かけなども実践する。

〔到達目標〕

正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。  
片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。  
正しい刺鍼操作を身につけ、正しい動作で鍼を枕に刺鍼できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技 (医道の日本)

〔準備学習・時間外学習〕

初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。☑

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	ペアを組んで上肢への取穴・刺鍼練習 手太陰肺経・手陽明大腸経	上肢の体表解剖を理解しランドマークを見つけることができる。手の太陰肺経・手の陽明大腸経の取穴を行うことができる。
17	ペアを組んで上肢への取穴・刺鍼練習 手少陰心経・手太陽小腸経	手少陰心経・手太陽小腸経の取穴を行うことができる。前揉法、切皮方法の工夫で痛みを少なく刺鍼を行うことで出
18	ペアを組んで上肢への取穴・刺鍼練習 手厥陰心包経・手少陽三焦経	手厥陰心包経・手少陽三焦経の取穴を行うことができる。前揉法・切皮方法の工夫で無痛で刺鍼を行うことができ
19	ペアを組んで下肢（大腿含む）への取穴・刺鍼練習 足陽明胃経の経絡の流れとそれに関わる筋の確認	下肢の体表解剖を理解しランドマークを見つけることができる。胃経の取穴を行うことができる。
20	ペアを組んで下肢（大腿含む）への取穴・刺鍼練習 足太陽膀胱経・足少陽胆経の経絡の流れ	足太陽膀胱経・足少陽胆経の経絡の流れを確認し取穴することができる。無痛で旋撚刺法で刺入することができる。
21	ペアを組んで下肢（大腿含む）への取穴・刺鍼練習 足厥陰肝経・足少陰腎経・足太陰脾経の経絡の流れ	足厥陰肝経・足少陰腎経・足太陰脾経の経絡の流れを確認し指定された経穴を取穴することができる。無痛で送り
22	まとめ	上腕・下腿にある経穴を取穴することができる。刺入方法で無痛で刺入することができる。指定された刺入深度を守
23	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
24	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴 （ヤコビー線、肩甲骨下角、上角・棘突起、C7の確認	腰部の体表解剖を理解しランドマークを見つけることができる。
25	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴 横並びの確認と直刺 （ヤコビー線、肩甲骨下角、上	腰部にある経穴を確認し指定された経穴を取穴することができる。できるだけ無痛で直刺をすることができる。
26	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 直刺 腰背部の筋の走行を確認する。	体幹背部にある筋の走行を理解することができる。皮膚表面に対して直刺することができる。
27	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 直刺 腰背部の筋の走行を確認する。	直刺で指定された刺入深度で刺入することができる。複数の鍼の刺鍼動作を安全に行うことができる。
28	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 斜刺 腰背部の筋の走行を確認する。	斜刺で指定された刺入深度で刺入することができる。複数の鍼の刺鍼動作を安全に行うことができる。
29	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 斜刺 腰背部の総復習	時間制限のあるなかで指定された経穴の取穴を行うことができる。安全な刺鍼動作をスムーズに行うことができる。
30	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は実技試験で行う。  
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。  
難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			柏崎 雅大
授業科目名	基礎きゅう実技	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術（艾への点火・姿勢・消毒など）を理解・実践できるよう繰り返し教授し身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。									
〔到達目標〕 散艾を米粒大、半米粒大に作成できる。 正確に目標点に艾を据えることができる。 安全に考慮し、点火動作を行うことができる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕 基礎的な技術習得の為、授業で行ったことを反復練習することが望ましい。段階的な技術力を向上させ、確実に技術を身に付ける。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 実技室の使用法と艾について理解する				実技室の使い方について理解できる。灸術について理解し艾の扱い方を理解できる。				
2	艾炷の作り方を理解する ベッドの上に艾炷を据える米粒大(大きさ重視)				艾炷を米粒大に作るができる。				
3	ベッドの上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ重視)				艾炷を米粒大と半米粒大に作るができる。				
4	ベッドの上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ+形重視)				艾炷を米粒大と半米粒大に作り大きさを整えることができる。				
5	ベッドの上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ+形重視)				艾炷を整った形と大きさを米粒大と半米粒大に作りわけることができる。				
6	ベッドの上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ・形+スピード意識)				艾炷を均等に連続してスムーズに作成することができる。				
7	ベッドの上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ・形・スピード)				艾炷を制限時間を意識しながら均等に作成することができる。				
8	確認テスト 総評、復習				テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。				
9	ベッドの上に据える 米粒大・半米粒大(総復習)				中間で未修得技術の部分を再確認しベット上で作成することができる。				
10	竹の上に据える 米粒大・半米粒大(正確な位置)				艾炷を目標点に正確に置くことができる。				
11	竹の上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ・形・位置)(線香持つだけ、点火なし)				艾炷を目標点を狙い線香を持ちながら正確に置くことができる。				
12	線香の正しい扱い方を理解する。竹の上に据えた艾炷に点火。自分の艾炷の温度を知る(足三里に施灸)				線香の扱い方を理解でき実践できる。				
13	竹の上に据えた艾炷に点火。米粒大・半米粒大(安全)				線香を安全に扱いながら艾炷を作成し、竹の目標点に点火することができる。				
14	竹の上に据えた艾炷に点火。米粒大・半米粒大(大きさ・形・スピード)				線香を安全に扱いながら艾炷を作成し、竹の目標点にスムーズに点火することができる。				
15	確認テスト 総評、復習				テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。				

# 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 午前・午後コース		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
基礎きゅう実技									
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術(艾への点火・姿勢・消毒など)を理解・実践できるよう繰り返し教授し身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。									
〔到達目標〕									
散艾を米粒大、半米粒大に作成できる。 正確に目標点に艾を据えることができる。 安全に考慮し、点火動作を行うことができる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
					基礎的な技術習得の為、授業で行ったことを反復練習することが望ましい。段階的な技術力を向上させ、確実に技術を身に付ける。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
16	竹の上に据えた艾柱に点火。米粒大・半米粒大(大きさ・形・スピード)			竹の曲面に対して艾柱を置くことができる。安全に点火動作を行うことができる。					
17	竹の上、コピー用紙に据えた艾柱に点火。米粒大・半米粒大(大きさ・形・スピード)			目標点を狙い艾柱に点火することができる。作り分けをしながら点火することができる。					
18	コピー用紙の目標点に据える(米粒大・半米粒大)(大きさ・形重視)			コピー用紙の目標点を狙い艾柱に点火することができる。大きさ・形を重視し作り分けをしながら点火することができる。					
19	コピー用紙の目標点に据える(米粒大・半米粒大)(大きさ・形・柔らかさ+位置重視。目標点に正確に据)			目標点を狙い艾柱に点火することができる。艾柱を硬さに注意しながら作り分けすることができる。					
20	コピー用紙の目標点に据える(米粒大・半米粒大)(大きさ・形・柔らかさ・位置+スピード重視。手際よ)			目標点を狙い形大きさが良いものを作成し艾柱に点火することができる。時間を計り手際よく点火し安全に施灸動作					
21	コピー用紙の目標点に据える(米粒大・半米粒大)(大きさ・形・柔らかさ・位置・スピード)			目標点を狙い狙った大きさ形で柔らかい艾柱に点火することができる。時間を計り手際よく点火し安全に施灸動作がで					
22	コピー用紙の目標点に据える(米粒大・半米粒大)(総復習)			目標点を狙い艾柱に点火することができる。作り分けをしながら点火することができる。					
23	確認テスト 総評、復習			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
24	ペーパー上への施灸(半米粒大)(大きさ・形・柔らかさ・位置・スピード)			薄いペーパーの目標点に艾柱を立てることができる。安全な点火動作を行うことができる。					
25	ペーパー上への施灸(半米粒大)(大きさ・形・柔らかさ・位置・スピード)			薄いペーパーの目標点に艾柱を立て点火できる。人体施灸の手順を理解することができる。					
26	ペーパー上への施灸(半米粒大)(大きさ・形・柔らかさ・位置・スピード)			ペーパーへの点火で穴が開かないように硬さを調節できる。緩和動作を理解できる。					
27	人体施灸(2点交互灸)足裏			人体への施灸を安全に行えるように患者への配慮やワゴンの位置等を意識することができる。					
28	ペーパー上への施灸(半米粒大)(6分20壮以上)人体施灸(2点交互灸)足裏			人体施灸の手順を実践できる。2点交互灸を足裏で行うことができる。薄いペーパーの目標点に艾柱を立て点火でき					
29	ペーパー上への施灸(半米粒大)(6分30壮)人体施灸(2点交互灸)足裏(3分計6壮)			人体施灸の手順を実践できる。時間を意識し2点交互灸を足裏で行うことができる。					
30	期末試験 総評、復習			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は実技試験で行う。 評価は学則規定に準ずる。					授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。				

## 2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科 午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
	総合基礎								

〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。主に解剖学と生理学を習得する授業を行う。解剖学では末梢神経について、生理学では体温調節と排泄についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

基礎医学（解剖学・生理学）において、脳神経の構造、体温調節の仕組み、排泄の仕組みについて理解し、自ら要点を整理して知識を得ることを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学、生理学（医歯薬出版）  
解剖学トレーニングノート（医学教育出版社）

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。☒

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 第8章 末梢神経；脳神経	脳神経の分枝、神経核、神経節、性状を理解できる。
2	解剖学 末梢神経；脳神経	脳神経の分布を理解できる。
3	解剖学 末梢神経；脊髄神経	頸神経叢と腕神経叢の分枝を理解できる。腰神経叢と仙骨神経叢の分枝を理解できる。
4	解剖学 末梢神経；脊髄神経、自律神経	腰神経叢と仙骨神経叢の分枝を理解できる。デルマトームを理解できる。交感神経の走行、分布を理解できる。
5	解剖学 末梢神経；自律神経	副交感神経の分布を理解できる。
6	解剖学 第10章 頭頸部の局所解剖	頸部の局所解剖を理解できる。
7	解剖学 第10章 上肢の局所解剖	上肢の局所解剖を理解できる。
8	解剖学 第10章 上肢の神経・脈管	上肢の神経・脈管の走行を理解できる。
9	解剖学 第10章 下肢の局所解剖	下肢の局所解剖を理解できる。
10	解剖学 第10章 下肢の神経・脈管	下肢の神経・脈管を理解できる。
11	生理学 第6章 体温 A体温調節～B体熱の産生と放散 a熱産生	体温変化の因子と産熱のしくみが理解できる。
12	生理学 第6章 体温 b熱放散～D体温調節の障害	熱放散のしくみと体温調節の意義が理解できる。
13	生理学 第7章 排泄 C尿の生成～f尿の成分	尿生成の仕組みと尿の組成を理解できる。
14	生理学 第7章 排泄 D腎臓と体液の調節～E蓄尿と排尿	腎臓の機能、体液調節の仕組みを理解できる。
15	確認テスト	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。  
筆記試験は確認テスト(100点)で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。  
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。